

関西電力 K K 建設部編

磯村英一編修

黒部川第四発電所

都市問題事典

——世紀の難工事に挑んだ土木技術——

片平信貴編

名神高速道路

——日本のアウトバーン誕生の記録——

先に同種のペーパーバックとして「<東海道新幹線——高速と安全の科学>(加藤一郎監修)を出版したダイヤモンド社より、昨秋標記の二種の出版がなされた。世の多くの人々の毎日の生活を支えているいろいろな土木構造物は、つくる人々の労苦を越えて静かに活動している現実と比較して、実際には予想以上にその生いたちの記は知られていない。また、今日まで数多く生まれた多くの構造物の出生の記は、その表記のむずかしさ、その市場性等からし、出版にまではなかなか至らなかったようである。東京オリンピックを前後とするはなばなしい土木構造物の完成は、世人の注目するところとなり、ここに至ってようやくにしてこれらの構造物を中心とする本の出版がなされるようになった。ダイヤモンド社は、多くの人々の印象としては経済書専門らしいが、今般出版された標記の二冊は、ともに技術者の眼がみた啓もう書といえよう。目次を散見すれば両書とも学会等で出版される「<工事報告書>スタイルであるが、内容は、土木技術者以外の読者に読ませようとする努力のあとがうかがえ、非常に読みやすいといえる。<黒部川第四発電所>は、工事主体であった関西電力 K K 建設部が記述したもので、図、表、写真等を所々に使用して、この世紀の工事をふりかえっている。文中、多くの技術用語がとび出してくるため、初めての人とはとまどうかも知れないが、土木技術に興味を持たれる多くの人に読んでいただきたい本といえる。他方「<名神高速道路>のほうは、おりからのカーブームにのり、また日本初の本格的な高速道路として有名になった名神高速道路の本当の姿を伝えて要を得ている。数年のうちにやってくるであろう高速道路網の完成をまえに、上手に道を走るための教養書としても、一般の人にすいせんできる。

ともに、われわれ土木技術者の仕事を、一人でも多くの人に知ってもらうためにも、読んでいただきたい本と考えられる。

黒部川第四発電所 ダイヤモンド社刊・新書判、261ページ・定価 380 円

名神高速道路 同上社刊・新書判/260ページ・定価380円

編者が本事典をつくる決心をされた意図を本書の「はじめに」からひろうと、

① 都市問題は日々に新たなる現実の問題である。そのためには学問と経験の二つの背景をもって解決の方法を発見するのが適当である。

② 都市問題は日本列島の繁栄につながるものである。日本のような狭い国では、都市計画そのものが日本の地域計画につながるものである。

③ 都市問題は同時に社会問題である。

④ 都市問題は世界共通の現象であり、国際的課題である。

⑤ 都市問題の研究は、これまで建築や土木・衛生など都市工学という自然科学的分野と、行政・財政・経済・社会といったような社会科学的分野等が、おのおのばらばらになっており、結局は都市行政を運営してゆくのに都合のいいように専門的な知識を提供するに過ぎなかった。しかし、今や都市の存在が、一つの科学の対象となり得る可能性が各方面で指摘されるようになってきた。

等の諸点に着目したとある。いうまでもなく、現在の日本、特に東京、大阪の都市の過密化は、これに関与する者だけではなく広く国民の注目の的となってきた。本書は上記 ①～⑤ までの広範な問題を、簡便な一冊の事典に収録しようという冒険をあえて試みたが、結果は完全とは申せぬまでも一応の成功を収めたといえる。出版元の話によれば、この種の事典は世界で初めて試みられたとあるが、大項目 17、中項目 106、小項目 355 の配分には労苦のあとがうかがえ、読みやすい。参考までに大項目 17 の件名と担当者名を記す。

I. 都市の形成 (木内信蔵)、II. 都市の類型 (藤岡謙二郎)、III. 都市の交通 (八十島義之助)、IV. 都市の公営事業 (竹中竜雄)、V. 都市のコミュニケーション (千葉雄次郎)、VI. 都市と住宅 (谷重雄)、VII. 生活環境 (日笠端)、VIII. 社会と労働 (木田徹郎)、IX. 経済と産業 (小田橋貞寿)、X. 教育と文化 (宮原誠一)、XI. レジャーと観光 (米林富男)、XII. 政治と行政 (吉富重夫)、XIII. 都市の設計 <Urban Design> (丹下健三)、XIV. 都市の計画 (高山英華)、XV. 都市の研究 (奥井復太郎)、XVI. 都市の憲章 (磯村英一)、XVII. 都市統計 (館稔)

鹿島研究所出版会刊・A 5 判、773 ページ・定価 3 500 円

(41 年 2 月まで 3 200 円)・箱入上製